



Newsletter No.79

2019年2月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

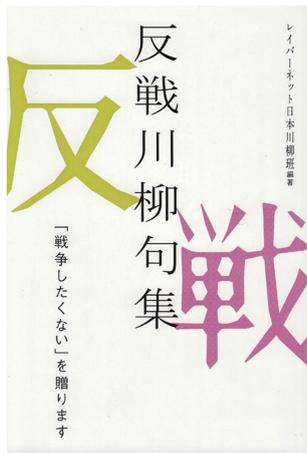
http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

「ウソと不正」の安倍政権にサヨナラを！

—着実にネットワークを広げよう—



なぜ安倍政権がかくも長くつづき、支持率が下がらないのか？ ウソと不正と不祥事、「昔なら内閣が一つ飛ぶ話」が延々とつづいている。1月28日の国会開会日集会で、立憲の江崎孝議員は「去年も政権の不祥事がすごかったが安倍退陣まで追い込めなかった。今回も心配だ。安倍政権のひどさが国民に伝わらない現状がある。

マスコミのみなさん、ひどい政治をもっと発信してほしい」とマスメディアに注文をつけた。民放テレビ局で活躍しているディレクターからは「原発、沖縄、安倍政権批判の番組ができなくなった。原発、沖縄を取り組んできたプロデューサーはここ数年で、すべて下ろされている」との話を聞いた。「最近のTVはひどい」と思っていたが、劣化はそれ以上に進んでいる。韓国のドキュメンタリー映画『共犯者たち』は、李明博政権・朴槿恵政権の約9年にわたるメディアへの介入支配、これに迎合するメディア上層部の実態を暴露しているが、安倍政権と日本メディアの関係はまさにこの状態である。テレビは「オール安倍チャンネル化」し、徴用工やレーダー照射問題で反韓国の感情が煽られている。

そんな2019年の幕開けだが、私たちはどうしたらいいのか。東北アジアの平和をつくるために、そして働くものの生活と権利のために、「おかしいことはおかしい」という声を発信していくことだろう。ノーという人々のネットワークを広げていくことだろう。

昨年当初、レイバーネットは財政危機に陥ったが、会員のみなさんからの50万円を超える緊急カンパ、活動計画の見直し・スリム化が進んだこと、レイバー映画祭・フェスタが成功したこと、などがあり財政状況は大幅に改善した。レイバーネットTVは新しい発信拠点「スペースたんぼぼ」に場所を移し、動画ニュースなど意欲的試みも始まっている。川柳句会、ブッククラブ、シネクラブの活動もすっかり定着した。メンバーの高齢化問題は依然としてあるが、昨年総会で「シニアからミドルへ」の方針をたて、徐々にだがミドル層が活躍するようになってきている。いま世界も日本も時代が急速に動いている。5月1日には天皇即位式とメーデーがあり、7月には参院選、そして10月は消費税増税。気をゆるめるヒマはない。最悪の安

倍政権を追い落とすために、今年も一つひとつ着実な運動をつみ重ねていきたい。(M)



< 2019年の活動予定紹介 >

● 2019 レイバーネット総会

年に一回の総会。活動報告、会計報告や運営委員の人事を決めます。また特別企画で講演会なども予定しています。3月16日スペースたんぼぼ

● ビアパーティ・合宿

夏のビアパーティは8月21日(水)を予定しています。合宿は10月5～6日です。

● レイバー映画祭とレイバーフェスタ

レイバー映画祭は8月3日(土)、レイバーフェスタは12月21日(土)を予定しています。

< レイバーネット TV 2019 前期の計画 >

以下は、1月28日のTV企画会議で出た特集企画です。あくまで案であり、情勢をみながら適宜、変更を含めて具体化したいと思っています。

★ 138号 3月20日(水)「これでいいのか日韓問題～民衆の側から考える」

★ 139号 4月17日(水)「マスメディアの危機とわたしたち」

★ 140号(特別番組) 5月1日(水)「天皇即位式とメーデー」

★ 141号 5月22日(水)「とまらない軍拡ニッポン～幕張メッセの武器見本市」

★ 142号 6月19日(水)「オリンピックおこわりTV」

★ 143号 7月17日(水)「参院選、日本はどうなる」

● 沖縄、原発問題については適宜具体化したい。

● 労働関係では、公共部門非正規の雇い止め問題、関西生コン問題、ユースユニオン、宮古新報労組のたたかい、ジャパンビバレッジのストライキ闘争、日本労働評議会クリーニング店長組合、労働契約法20条裁判闘争などを取り上げていきたい。

プロジェクト活動紹介

★川柳班： 『反戦川柳句集』の反響あれこれ

昨年末に出版した『反戦川柳句集-「戦争したくない」を贈ります』が、あちこちの機関誌などで順調に紹介されている。レイバーフェスタでも紹介してくれた棚沢健さんは、「川柳で言葉に乗っ取り返す」として改めて『週刊新社会』に書いてくれた。句集中にたびたび登場する鶴彬（文学界で初めて治安維持法が適用されたといわれている）を引き合いに、話を進めている。「タマ除けを産めよ殖やせよ勲章やろう」は、当時ちまたにあふれた七五調の標語に乗っ取って川柳として完成させたなど、川柳の言葉としての力を述べ、この反戦句集にも「子を産ませ爆弾にした国忘れ」が載っているとのこと。

またある方は収録句「トランプは武器シンゾウは国を売り」をタイトルにして「寸言をもって現代世界の病根を刺し貫く迫力を持っている」と。つづけて「後半には、すぐれた論説や報告」があり、「正月早々に、良いものを読ませていただいた」と過分の言葉。『ひらく』の天城研作さんは「その時代の政治、経済、軍事、教育、文化等の政策や動向を鋭く風刺、告発、皮肉る川柳は、体制や政権への批判の宣伝扇動になり得る」として数句を上げ、その句の持つ意味、背景を考察してくれた。天城さんが最後に引用した句は、公募の特選句2句。「この地球70億のシェアハウス」「少しずつ平和減ってる砂時計」。いまシェアは困難をきわめているとして、地球上の環境汚染、戦渦、労働問題等にまみれ、砂時計の砂の落ち方も加速しているとのこと。

川柳班のメンバーが丁寧につくった句集、文学を通しての世直しの一助になれば、こんなうれしいことはない。まだの方はどうぞお手元に1冊を。(川柳班・笠原真弓)

★ブッククラブ： 本を読む楽しみを共有



ウェブサイトで「週刊 本の発見」の連載を開始したのは、2017年2月ですから、今年でちょうど2年になります。連載第1回は『プリズン・ブッククラブ-コリンズ・ベイ刑務所読書会の1年』でした。その時から、ブッククラブの実現をねがいましたが、レイバーブッククラブが発足できて、ちょうど1年になります。1冊の本をめぐりいくつもの

意見・感想がでて、新しい見方が生まれていくのを実感できるのが読書会の醍醐味です。つい最近の『トランプのアメリカに住む』の時には、著者のアメリカ論をめぐり甲論乙駁。一方、アメリカ大統領選挙でネットが世論をつくり、選挙戦を支配していく過程が適確に描かれていることに一致して感心しました。いまネットは新聞・雑誌・テレビをこえるメディアになりつつあるのです。それだけにネットをどう活かすかがあらためて問われています。

当初は、本はネットになじまないのかと危惧しました。しかし、連載を重ね読者会が生まれ参加者もひろがり、また著者・ドリアン助川さんから直接評者に手紙が届くなどの交流も生まれています。テレビの攻勢に負けずに映画が生き残ったように、

知恵と楽しみの源である本はネット時代にも必ず生き続けます。物量的情報に惑わされない質の高い情報こそ必要とされます。書評ひいては批評の重要性はそこにあります。本を読む楽しみを共有しましょう。本の街神田神保町で開かれるレイバーブッククラブにぜひご参加ください。今回は3月17日、直木賞作品『宝島』です。(志真秀弘)

★シネクラブ： 「映画を観て討論」が生みだすもの



レイバーシネクラブは、土本典昭さん・木下昌明さんらを中心に行われていた「映画運動・試写室」や「小川町シネクラブ」のようなものを再現したいということで、昨年三月に発足しました。これまで上映したラインナップは『アルジェの戦い』『地の塩』『チャップリン短編』『誰も知らない』『A』『戦場でワルツを』『街の灯』などですが、ひとりでDVDを観るのではわからない新たな発見があります。毎回15人前後が集まり、熱い討論が尽きません。とりわけ『地の塩』は労働映画の傑作で、討論だけでは足りず長い感想を書いてくれた人がたくさん現れました。子どもの置き去り事件をモチーフにした『誰も知らない』(是枝裕和)や、オウム真理教信者のドキュメンタリー『A』(森達也)などは、世代によって感想が違ったのも興味深いことでした。

シネクラブ常連の中には映画の作り手もいます。埼玉で起きたアスベスト問題を追った北穂さゆりさんは『こどものころ光る砂であそんだ』という作品を完成させ、昨年末のレイバーフェスタで大

反響を呼びました。そして、沖縄に一年間通い続けた湯本雅典さんの『沖縄から叫ぶ～戦争の時代』。辺野古をテーマにした映画は数多いですが、国労、福島、選挙などを長く撮り続けてきた湯本さんの経験が凝縮された力作です。

土本さんの時代に比べたら、多くの方が映像を作るようになりました。福島をテーマにしたものだけでも400作品は下りません。だからこそ一層、作品を批評する目を養っていくことが求められていると思います。今年最初の上映会は2月2日の『水俣一揆～一生を問う人びと』（土本典昭）。45年前の映画ですが、今の社会の根幹が見事に映し出されていることに驚かされます。映画を観て討論することが、社会を変える原動力になることを目指して、今年もシネクラブは活動します。月1回の予定です。あなたもぜひ！（堀切さとみ）

★あるくラジオ： ファミリアな空気感が魅力



昨年10月、会員の志真秀弘さん、松原明さんと3人でスタートした「あるくラジオ」ですが、今年1月に第2回を放送することができました。第1回のテーマは、「動き出した若者たち」。依草太さんをゲストに、依さんがなぜ社会運動にかかわるようになったのか、依さんのまわりの若者たちは何を考えているのかなど、率直なお話を伺いました。第2回は「原発労働のいま」。福島原発の収束作業で被ばくし、急性骨髄性白血病になったあらかぶさん（ニックネーム）ご夫妻と支援者のなすびさんに、過酷な原発労働の実態、闘病のことなどをお聞きしました。あらかぶさんのまっすぐな生き方がここに響きました。

第1回、第2回とも、放送終了後、熱心な感想が視聴者から寄せられました。「いろいろな思いを引き出せる、さまざまな可能性を秘めたメディア」「映像がないことで、かえって臨場感にあふれていた」というラジオという媒体そのものの可能性や特性にふれているご意見もありました。ラジオをやってみて実感しているのは、とても敷居の低いメディアであること。あらかぶさんのように、顔出しや名前出しができない人にはまさに理想的です。機材もシンプルで、パーソナリティーとゲスト、そしてリスナーがいれば成立するというのもいい。そして何よりファミリアな空気感が魅力です。「希望をさがしてあるくラジオ」（キャッチ）は、2月23日（土）午後3時から第3回「高校生は自由を求める」（仮）を放送します。みなさん、ぜひ聞いてください。アーカイブでも聞くことができます。「あるくラジオ」で検索してください。（佐々木有美）

●米国労働運動： ロサンゼルス教員組合大勝利、 民営化を跳ね返す



1月14日から22日まで3万人のロサンゼルス教員組合がストライキに立ち上がり、6パーセントの賃上げだけではなく、クラス生徒数の削減など画期的な学校改革を実現した。どう闘ったか？ ストライキの第一日目から圧倒的多数の教員たちは毎朝学校でのピケットラインに生徒や保護者たちと参加した。ストライキ参加者と支持者たちは市中心部に向けてデモ行進し、初日は5万人となり、それ以後も増え続けた。街は喜びに溢れていた。週を通じてどこでも、歌、踊り、話し、ブラスバンド、マリアッチの音楽で一杯だった。降り続く雨にも気落ちすることなく、カップに歌の歌詞やプラカードを貼り付けた。市内至る所で、カフェ、バスの中や店で、飛行場で、レンタカー屋で人々はストライキとその要求項目について話し合っていた。60万人の生徒に学校に来てもらおうと、教育委員会はスト破りの代理教員を民間会社から雇い入れた。通常の賃金の倍額をスト中は支給した。しかし、ロサンゼルスでは代理教員も組織化されているので、スト破りをした者はごく少数だった。（配信・国際部）

新会員紹介

●新しい時代の扉は開かれた 小久保喜行

みなさんよろしく。橋下-維新の登場以降、大阪-関西の闘いは手探りから始まり、とうとう大きな成果を掴むところまで進んできました。自民系をも含めた大きな結束=団結は、まさにオール沖縄に負けないものとなってます。統一地方選に、多くの30～40歳代の男女が立ち上がったことがその証左です。薔薇マークキャンペーンも上陸し、人々の豊かな生活のための経済政策が街頭でも呼びかけられています。宇野経済学理論により帝国主義、資本主義は打倒するものであり改良主義はだめと教えられてきた私には目からウロコです。もっと遡ると、労農派-講座派以来のマルクス、レーニンをいかに読むのかの机上の理論まで疑いはじめてます。団結の闘いの中に私有財産制の廃止の原則を貫く共産主義者の役割は重大です。「プロ独」に向かって自民系市長候補に投票せよ（笑）ですよねー。（大阪在住）

わたしたちの映画を活用しよう！ 『ユニオンタイム』を上映しませんか？

昨年レイバーネットでは、レイバー映画祭、レイバーフェスタなどでさまざまな優れた作品を取り上げてきました。独自に字幕を付けた作品もあります。また会員の自主作品も好評です。今回、国際部で翻訳・字幕をつけたアメリカ労働運動のドキュメンタリー映画『ユニオンタイム』の上映を受け付けることになりました。廉価でDVD貸し出しが可能です。ぜひあなたのところでも上映会を開いてください。貸し出し方法・詳細はレイバーネット事務局にお問合せください。また会員の自主作品も取り扱っています。→レイバーネット事務局 TEL03-3530-8588、labornet.jp@nifty.com。

★『ユニオンタイム～米国精肉工場のたたかい』
制作：米国 マーサー・バー監督 2016年/86分



米国ノースカロライナ州にあるスミスフィールド精肉工場。1993年に開業して以来、肉を加工する労働者は低賃金のうえ、過密なライン作業を強いられ指を破損する事故が多発した。

その多くはラテン系やアフリカ系労働者たちだ。「職場環境を改善するにはユニオンをつくるしかない」と組合づくりを開始。会社の妨害が続いたが、16年をかけて5千人の組合組織化に成功した。このドキュメンタリーはその壮絶で感動的なたたかひの記録である。DVD = 5000円（予）

★『辺野古 500人大行動』 制作：見雪恵美 2018年/25分

沖縄の人々の民意を踏みにじって強行されている辺野古の新基地建設。もう我慢できない！市民の力で工事を止めようと2018年4月23日～28日の6日間、ゲート前座り込み大行動が取り組まれた。沖縄から全国から海外から人々はやってきた。カメラは機動隊との攻防だけではなく、沖縄の人々の心の叫びを生々の声で伝えている。DVD = 2000円

★『非正規に尊厳を！-メトロレディーブルース総集編』 制作：ビデオプレス 2018年/55分

東京メトロ売店で働く非正規の女性たちが、正社員との格差是正を求めて組合を作ったのは2009年。この映画は、初めてのストライキから、会社との交渉、裁判提訴、地裁判決とつづく2013年から2017年にわたる5年間を記録している。「不当判決」に

も負けず、新たなたたかひに挑むメトロレディーたちの怒りと感動のドキュメンタリー。DVD = 3000円

★『わたしは黙らない～派遣労働者 渡辺照子のたたかい』 制作：依草太 2018年/25分

派遣労働者として3か月更新を繰り返しながら約17年働いてきた渡辺照子さんは、2017年10月に突然、雇い止めを言い渡される。そんな渡辺さんの姿を追った。派遣労働という間接雇用の在り方はどうなのか。壊れたコピー機を取り換えるのとは訳が違う。声を上げられない人々の思いも背負って闘う渡辺照子さんの姿から今の日本社会が見えてくる。DVD = 2000円

★『子どものころ光る砂であそんだ』 制作 北穂さゆり 2018年/30分

松井絵里さんはさいたま市生まれ。近所には旧エタニット社が経営するアスベスト工場があった。子どもの頃、アスベストの粉で遊んだことが原因で、中皮腫というガンにかかった。治療法はない。工場内では100人を超える石綿労災が発生。深刻な住民被害も懸念されたが、実態は10年以上も明らかにされなかった。映画は、元エタニット工場労働者の協力を得て、公害周知活動と補償を求める運動をとらえる。そして、彼女の限りある命を見つめる心境を記録する。DVD = 2000円

＜湯本雅典さんの新作『沖縄から叫ぶ 戦争の時代』＞



この映画は、昨年2018年の沖縄とその周辺の離島で起きている軍備増強をめぐる状況と、そこでたたかう人々を追いかけたドキュメンタリーです。内容としては、昨年2月の名護市長選挙から9月の沖縄県知事選挙、そして沖縄の離島と鹿児島県奄美大島の自衛隊基地建設の実態を描いております。1月22日

に行われた完成上映会（ビデオアクト主催）には、120人の参加がありました。今、沖縄への関心度はまちががなく高まっています。そして、政治の焦点に沖縄がなりつつあります。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。2019年・61分・制作＝湯本雅典 ナレーター＝笠原眞弓 音楽＝ジョニーH、多田弘一 DVD = 2000円。申込みは湯本雅典・公式サイトへ <https://yumo.blue>

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 570名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578